

# ワイン用ぶどう栽培で障がい者の働く場所と生きがいを 社会福祉法人鷹栖共生会 とわ北斗(鷹栖町)



谷 敏彦 施設長

## 【組織等の概要】

- 業種：指定障害福祉サービス事業所
- 代表者：施設長 谷 敏彦
- 従事者数：職員37名、施設利用者40名  
(うち農業部門：職員4名、パート7名、施設利用者14名)
- 主な活動内容：ワイン用ぶどうの栽培(4ha)、トマトの栽培(2ha)・加工、売店経営、家具・古民具の再生販売等
- 主な出荷・販売先：自所売店、酒飯店、ふるさと納税
- URL：<http://www.fukutaka.or.jp/hokuto>

## 【取組の経緯と概要】

- ◆ 平成24年に「とわ北斗」の運営開始。施設利用者(就労継続支援B型と生活介護者)の働く場所と生きがいを増やすという法人の理念のもと、トマトの栽培と加工を始める。
- ◆ 平成24年に町内の観光牧場跡地を取得し、ワイン用ぶどうの試験栽培を開始。平成28年から本格的に栽培し、施設利用者は主に草取り等の管理作業や収穫作業に従事。
- ◆ 令和元年に白ワインの委託生産開始。
- ◆ 令和2年から町のふるさと納税返礼品にワインを出品。
- ◆ 令和4年から赤ワイン用の品種を収穫開始。

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 栽培開始時、ぶどう栽培の知識を持つ職員がいなかったため、知識を有する職員を採用。
- 施設利用者個々の障がいの程度が異なることから作業効率が上がらなかったため、個々の特性に合った作業を行わせることで、作業効率が向上。

## 【取組の成果】

- 作業に従事する施設利用者の増加  
12名(H28)⇒14名(R4)
- ぶどう栽培の知識がある職員を採用することでぶどう栽培技術が向上。
- ぶどうの栽培本数増加(900本(H28)⇒13,000本(R4))
- ワイン製造量増加(180本(R1)⇒969本(R4)※1本750ml入り)
- ぶどう栽培を始めたことで、草取りや収穫など外での作業が増え、施設利用者がより活き活きと作業するようになった。

## 【今後の展望】

- 現在、岩見沢市のワイナリーに醸造を委託しているが、ぶどう園に隣接した場所に醸造所を建設し、施設利用者の通年雇用を確保する。栽培面積を拡大し、年間2万本のワイン生産を目指す。
- ワインの売り上げ増により、施設利用者の賃金を現在より高くすることができ、施設利用者が誇りに思えるワイン造りを目指し、障がい者雇用を推進していく。



ぶどう園の様子



栽培されているぶどう



施設利用者による収穫作業